

令和3年度 文京区障害者地域自立支援協議会
第2回相談支援専門部会 次第

日時 令和3年11月15日(月)14:00から
Zoomによるオンライン開催

1 開会挨拶

文京区障害者自立支援協議会 副会長 志村健一氏より

2 議題

- (1) 障害者・児計画の評価についての振返り
- (2) 障害児支援についての話題提起
 - ・ふみの輪について 【資料第1-1号】
 - ・障害児支援ネットワークについて 【資料第1-2号】
- (3) 令和3年度定例会議報告 【資料第2号】
- (4) 令和3年度上半期文京区指定特定相談支援事業所連絡会 活動報告
【資料第3号】
- (5) その他

マイ・ファイル「ふみの輪」って何？



このファイルは、支援の必要な人たちが、生涯にわたり、安心して暮らすための一助として作成されました。

人と人、人と機関、機関と機関をつなぎ、幼少期から成人に至るまで、毎日の生活とその変化に応じて、一貫した切れ目のない支援を受けるためのツールです。

(母子手帳の拡大版のイメージです)

利用のタイミングはいつ？

◆ライフステージの移行期

保育園・幼稚園に入るとき、小学校に入学するとき、仕事を始めるとき、転居したときなどに、それまでの成長の経過や支援についての情報を伝えることで、新しい生活へのスムーズな移行を応援します。

◆複数の機関を利用している時や、新たな医療機関や専門機関に相談するとき

それぞれの機関に提示することで、互いの支援方針を共有することができます。また、生育歴やこれまでの相談歴等を繰り返し説明する負担が軽減されます。

◆成長の記録、支援の記録として

成人した後も、これまでに受けた支援や福祉サービス、医療情報などの記録となり、必要なときに確認することができます。

Aさん

就学にあたり、これまでの支援情報や子どもの様子を具体的に伝えたい！！

Bさん

発達の専門の医師に相談したので、これまでの成長の経過や療育内容を伝えたい！！

Cさん

学校でつくってもらった支援計画や検査などの報告書を上手に保管しておきたい。

「ふみの輪」はどんなふうにつくるの？

ファイルは大きく次の3つのシートに分かれています。

プロフィールシート

発達に関する情報や、医療情報、生育歴等、本人と家族に関する情報を記入します。

サポートシート

発達や生活の様子、具体的支援方法等に関する情報を記入します。ライフステージや支援の種類に合わせていろいろなシートが用意されています。

子どもに合わせて
必要なシートを選び
カスタマイズできます

関係機関の支援情報

療育機関や学校の個別支援計画、発達検査の報告書等をはさみこみます。

本人と家族でオリジナルの
マイ・ファイル「ふみの輪」
をつくろう！

大人になっても使えます



マイ・ファイル「ふみの輪」は、

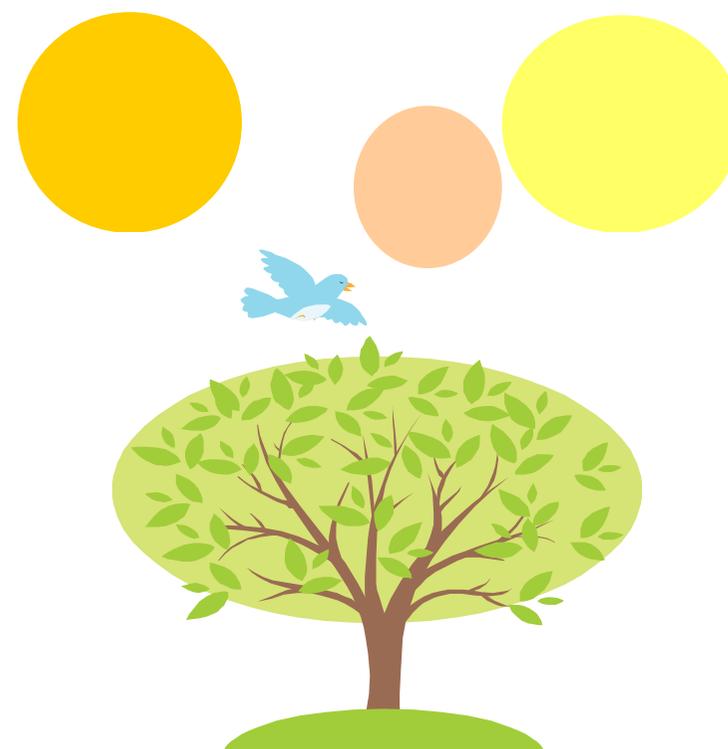
支援を必要とする人とご家族の願いが周囲の人に伝えられること、支援機関が変わっても支援の継続性や一貫性が保たれること、地域で安心して暮らすための一助となること、

を願って作成しました。

どうぞご利用ください！！

マイ・ファイル「ふみの輪」

ご案内



【配布場所】

- 文京区ホームページ○
ダウンロードできます
- 置いてあるところ○
教育センター・・・作り方の相談ができます
保健サービスセンター、子ども家庭支援センター、
幼児保育課、教育指導課、障害福祉課、
障害者基幹相談支援センター

【お問い合わせ】

文京区教育センター総合相談室

03-5800-2594（直通）

すべての子どもたちが健やかに育つために
すべての人のゆたかな毎日のために
文京区

令和3年11月15日

障害児支援ネットワークについて

放課後等デイサービス カリタス翼
 管理者兼児童発達支援管理責任者 向井 崇

【障害児支援ネットワークとは】

1. 障害児支援ネットワーク（略：児ネット）は指定特定相談支援事業所連絡会での議論を発端に、障がいのある子ども達を支援する関係機関が集まり自由に意見交換できる場を目指して、2016年5月19日の第一回会議から活動を開始しました。
2. 児ネット第一回目の会議では、「児童から成人にむけてサービスが変わる時の問題をどうするか?」「ふみの輪（文京区独自の支援シート）をいかに活用するか?」についての意見交換を行いました。
3. このように、児ネットでは開設当初から「ライフステージに応じて支援者が変わっても一貫性のある支援が受けられる体制づくり」と、そのための「縦横連携」を目指してきました。しかし残念ながらまだ実現できていません。
4. その後も隔月ペースで事例検討など勉強会を続けてきましたが、2020年になり新型コロナウイルスのため障害児支援ネットワークの開催が困難となりました。緊急事態宣言下での運営はどの事業者にとっても初めての体験で、当時は情報だけでなく、マスクやアルコール、フェイスシールドなど物資も足りない状況でした。そこで、まずはメールで情報共有を呼びかけたところ多くのフィードバックがあり、後にZOOMで障害児支援ネットワークミーティングを開催することができました。

【現在の活動と課題】

1. 現在、児ネットは月1回ZOOM上で開催されています。メンバーは、相談支援事業所、障害児通所支援事業所（児童発達支援事業、放課後等デイサービス）、特別支援学校、教育センター、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点、私塾経営者の方々等、幅広い領域から支援者が集まり、顔の見える関係のなかで情報共有と意見交換を行っております（2021年11月時点でのメーリングリストのメンバー数35名）。
2. また、組織化の必要性から現在児ネットは向井（放課後等デイサービス カリタス翼）、勝間田（富坂子どもの家）、高山（わでかくらぶ）、北原・關（基幹相談支援センター）がコアメンバーとなり、ネットワークの中心的な役割を担っております。
3. これまで文京区障害児支援ネットワークで挙げた課題
 - ・ 連携（縦横連携）の課題：幼児から児童、児童から成人に移る際などに一貫性がなく、各機関の密な繋がりが必要。
 - ・ 資源不足：支援の受け皿が不足しており、相談支援事業所としても紹介先がない。
 - ・ 報酬単価の低さ：報酬改定が繰り返され、事業所収入が減少している。
 - ・ 支援体制：困難事例が増える一方で、対応できる職員が少ない
 - ・ 保護者の相談：家族を支える仕組み、保護者と一緒に考える場が必要。
4. 今後このような地域の課題を解決するためには、行政・民間が垣根を超えて知恵を出し合える協議体が必要になるのではないかと考えられます。

令和 3 年度 定例会議報告

<第 1 回> A グループ企画

○日時：令和 3 年 8 月 4 日（水）18：30～20：10 Zoom によるオンライン開催

○参加者：33 名 事務局 4 名 計 37 名

○テーマ：「高齢期のライフステージにおける本人支援と家族支援」

～それぞれが高齢化していくなかでの意思決定支援を考える～

○グループワーク：大切になる視点やあったらいいなと思う支援などについて意見交換

○発表意見抜粋：

家族支援

- ・本人だけでなく家族全体への支援が必要。家族支援が充実することで本人の生活も充実安定すると思う。母が短期入所を利用できると、家族全体の負担が減るのではないかな。
- ・経済面や家族が働けない理由のアセスメントも大事である。

障害福祉サービスと介護保険サービスの連携体制

- ・障害福祉サービスを使いながら介護保険サービスへ徐々に移行できると良い。本人特性の理解を引き継ぎ、介護保険へ移行しても、移動支援が柔軟に使えると良い。
- ・相談支援専門員とケアマネジャーの連携が必須で、障害福祉サービスと介護保険サービスの併用ができると良い。相互理解が深まる会議体や居場所があると良い。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行した先輩の話、体験談などが聞けると、イメージが持てたり安心感に繋がったりするのではないかな。

地域での支え

- ・地域生活支援拠点等でサポートできると良い。
- ・コミュニティの場ともなる銭湯を経営する事業所があると嬉しい。
- ・多世代が関わりを持てる、通える場所があると良い。
- ・災害時にも適切な SOS が出せるような支援が作れると良い。
- ・地域住民の理解も必要。地域のコミュニティ作りを考えていけると良い。

制度理解

- ・成年後見制度について理解が深まる事業や取組みがあると良い。

その他

- ・障害や診断がなくても利用できる就労支援があると良い。
- ・事業所を回る B～ぐるがあると良い。

○総括：

サービスはたくさんあるが縦割りになっているため、切れ目のない包括的な支援はできていない。相談支援専門員が支援者を集め、アセスメント・役割分担することが必要。また、利用者自身に役割があり主体的に生活できる環境が整えられることが必要。

適切な早期介入、連携、継続性が大切。社会との繋がりが増えることで、意思形成・意思決定ができてくる。地域の中でどのような支援を行うと安心した生活へ繋がっていくかを考えていく必要がある。

<第2回> Bグループ企画

○日時：令和3年11月2日（水）18：30～20：05 Zoomによるオンライン開催

○参加者：42名 事務局4名 傍聴1名 計47名

○テーマ：「青年期における意思決定支援」～一人暮らしをして仲間と青春を謳歌したい～

○グループワーク：

本人の希望する「一人暮らしをして仲間と青春を謳歌したい」について①どのような社会資源が活用できるかを検討する。また、②ご本人の思いを実現するために、支援者として私達は「・・・」と考えました！という結論を発表。

○発表意見抜粋：

①活用できる社会資源

人

- ・病院の相談員、相談支援専門員、施設関係者、ホームヘルパー

住まい

- ・グループホーム、ショートステイ、マンスリーマンション、シェアハウス、短期入所

集いの場

- ・Bラボ、こまじいのうち、コミュニティカフェ、学校の同窓会、サロン活動、交流できる場所、失敗しても学べる場所、同年代の人が集う環境、スペシャルオリンピックス、成人式、若者の趣味のサークル、地域活動支援センター、区報(の情報)、福祉系の大学サークル、地域生活あんしん拠点、地域のイベント

学びの場

- ・区の「モテ講座」、SNS 教室、ボランティア活動、デバイス講座、スマホ講座、金銭管理講座

生活スキルの支援

- ・社会福祉協議会の金銭管理支援

支援の視点

- ・ご本人の一人暮らしのイメージがどのようなものなのか考える必要がある。
- ・移動支援を使って仲間づくりを広げる。
- ・障害がある人同士のマッチングサービスの活用、同時に詐欺や犯罪から守る手段の検討。
- ・家族支援の観点から家族会の紹介。

②ご本人の思いを実現するために「・・・」と考えました！

- ・「いろんな情報がパッと行ってパッと取れる」、「チャレンジできる雰囲気」、「伴走者の存在が大事」、「支援者と相談しながら」、「一人暮らしを本当にしたいニーズをアセスメントして携帯電話ショップに働きかけデバイス講座を開く」「友達のネットワークづくり、信頼のおける支援者と金銭管理の練習」

○総括：

今の生活でも困っていないかもしれないが、数十年後には8050問題につながるかもしれない。障害がある方は、一般的な社会生活、人間関係の経験が圧倒的に少ないことで青春を謳歌できていない可能性がある。グループワークでは、場や人とのつながりを通じて思春期経験を支えていく視点やアイデアがたくさん話し合われていた。そこで大事となる“アウトリーチ支援”のプラットフォームとして、今後地域生活あんしん拠点が期待される。また、皆が区内の社会資源に詳しくなり適切な支援の助言や提供ができるよう、学び合っていくことがとても大切である。

令和3年度上半期文京区指定特定相談支援事業所連絡会 活動報告

1. 文京区指定特定相談支援事業所連絡会とは

障害福祉サービスの給付プロセスに、原則サービス等利用計画の作成が必要となっている。相談支援の質の担保、事業所間での連携、官民共通の支給決定プロセスの構築等を目的に連絡会が発足。地域課題の共有やその解決に向けた施策等の検討を行っている。連絡会は、相談支援専門部会の下部組織としても位置づけられている。区職員は検討事項があれば適宜参加している。

また、今年度より相談支援専門員の質の向上を目的に事例検討会を開催している。今年度の定例会は8回、事例検討会は4回の予定。

2. 活動内容

○ 開催方法

- ・新型コロナウイルス感染症に伴い、定例会は昨年度に引き続き Zoom によるオンラインで開催。事例検討会は感染対策を講じ、参集型で開催している。

○ 定例会

- ・これまでに4月、5月、6月、8月、10月の5回開催した。
- ・区内指定特定相談支援事業者への聞き取り調査
- ・文京区指定特定相談支援Q&A集の確認
- ・区との加算要件の確認
- ・新型コロナウイルス関連の情報共有（ワクチン接種、緊急時受入れ等）
- ・その他情報提供

○ 事例検討会

- ・事業所連絡会で事例提供者を募集。スーパーバイザーは経験が長いベテランの相談支援専門員へ依頼。事業所連絡会の相談支援専門員や行政職員などが参加している。

【プレ事例検討会】

- ・令和3年7月8日（木）13：30～15：00 ・参加者：20名
- ・概要：60歳代前半の女性。知的障害。グループホーム入所中。本人は現在利用している通所先の利用継続や金銭管理含めた親族の関わりでの継続を希望している。65歳を見据え、どのような資源の活用やサポートが必要か、助言がほしい。
- ・話合った内容：具体的サービスや支援体制の検討、相手の立場に立って本人や地域と関わりを続けることの大切さ等。

【第1回事例検討会】

- ・令和3年9月17日（金）13：30～15：00 ・参加者：19名
- ・概要：60歳代男性。難病。肢体不自由。定期的に痲癩を起す。決定事項を親族に委ねる。痲癩の理由や本人が自己決定していくにはどうしたらよいか。
- ・話合った内容：生活歴や趣味、交友関係などの本人像を深める。“障害者でなく地域住民”として暮らす視点を大切にする。地域住民に知ってもらうことも大切。